

## 再整備途上の一ノ井堰

— 京都府京都市 —

脇谷 芳招

## I. はじめに

京都名勝嵐山渡月橋の直上流に位置する一ノ井堰周辺では、令和元（2019）年度からの3カ年計画で嵐山左岸溢水対策工事の実施途上です<sup>1)</sup>。施工は冬期の12月から3月までの期間で計画されていて、表紙写真は令和元年度工事が完了した直後の令和2（2020）年5月に撮影しました。

II. 洛西地区の概要<sup>2),3)</sup>

一ノ井堰は洛西土地改良区が管理している農業用取水施設です。図-1は洛西地区の概要図に加筆して示したものです。

洛西土地改良区は、昭和22（1947）年に結成した洛西普通水利組合を昭和26（1951）年に組織変更して、現在に至っています。当初の受益が桂川兩岸と嵯峨地区を合わせて1,782 haであったのが近年の都市化進行に抗えず、令和2年度時点では平成8（1996）年に吸収合併した檜原地区を合わせても356 haと激減しています。

現在の洛西土地改良区では運用業務を分担する委員会を組織しています。用水運用に直接かかわる委員会のうち、一ノ井用水および嵯峨用水には古来の歴史的な由緒があります。

## III. 一ノ井用水の歴史

## 1. 秦氏の渡来と葛野大堰

諸説があるのですが、応神14年に秦の始皇帝の末裔とされる弓月君が百済の120県の人民を率いて渡来し、葛野地方（現在の京都市右京区太秦周辺）を本拠地として土木や養蚕・機織などの技術を發揮して秦氏の祖として栄えたと伝えられています<sup>4),5)</sup>。学術的には確定されていませんが、応神天皇は実在の可能性が高いとされており、その年代は4世紀末から5世紀初頭と推定されています<sup>5)</sup>。

葛野地方に根拠を定めた秦氏が、灌漑用水の取水を目的に桂川に葛野大堰を築造したのが5世紀後半と

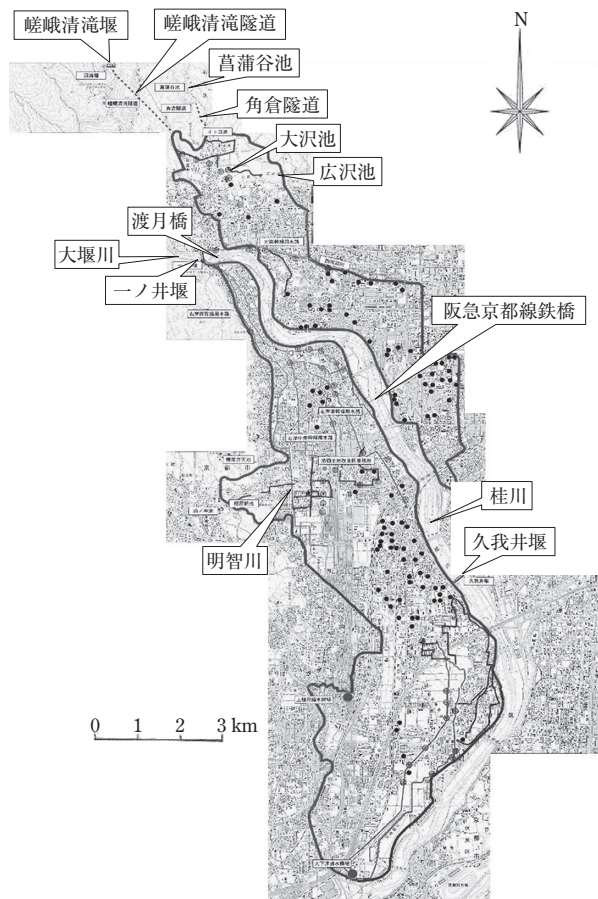


図-1 洛西地区概要図

され<sup>5)</sup>、その位置は現在の一ノ井堰右岸取水口付近（写真-1）で間違いないとされています<sup>6)</sup>。

## 2. 古来の洛西用水

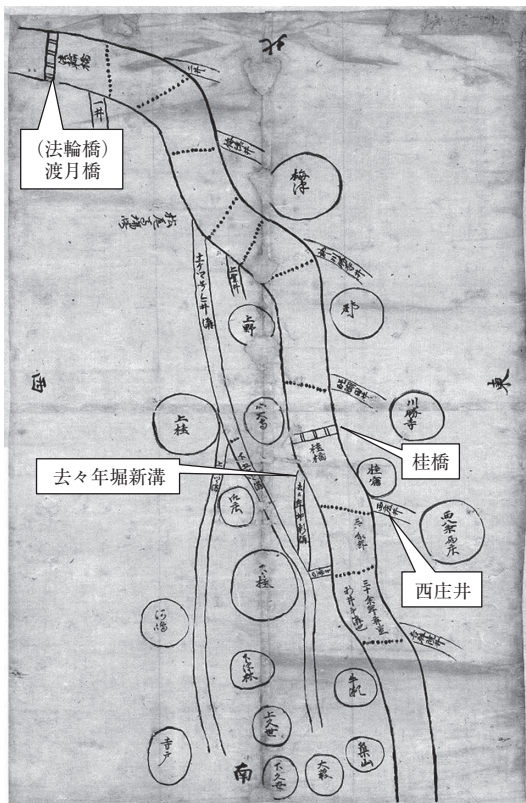
古来の桂川からの井堰取水を示す差図案（図-2）が国宝東寺百合文書に残されています<sup>7)</sup>。これは、桂川の桂橋下流で「東岸『西庄井』の取水が西岸の『去々年堀新溝』と示した取水口の新設で妨げられた」と激しく争われた過程で、明応5（1496）年に東岸側から幕府に提出された差図の案です。「桂橋」が描かれている位置は現在の阪急京都線の鉄橋付近であろうと推測されています<sup>8)</sup>。



写真-1 一ノ井堰碑



写真-2 明智光秀の首塚



※図示した箇所は筆者加筆

図-2 東寺百合文書 ツ函三四一 山城国桂川用水差図案

### 3. 明智川

右岸西幹線水路が旧山陰街道を横断する区間を地元では小畠川こぼたけがわと呼称し、施政者を崇拜する趣旨で「明智川」とも呼んでいます<sup>9)</sup>。天正3(1575)年に織田信長の丹波地方平定の命を受けた明智光秀へいたんが兵站輸送のために旧山陰街道を整備した折に、街道を横断する洛西用水路を再整備したそうです<sup>10)</sup>。光秀を謀反人と罵倒した世間の評価が昨今、真逆になりました。しかし旧来から、善政を施した光秀公を敬う史跡が散見されて、たとえば京都市東山区には光秀公をまつう首塚(写真-2)が祀られています<sup>11)</sup>。



写真-3 角倉了以像

### 4. 葛野大堰周辺

江戸時代初期の慶長11(1606)年に角倉了以すみのくらりょういが大堰川(桂川の渡月橋上流側の呼称)の開削に成功し、丹波から嵯峨への舟運を整備しました<sup>12)</sup>。渡月橋直上流に設けられた農業用水の取水堰は、府営洛西農業水利改良事業で昭和27(1952)年3月に一ノ井堰が新設されるまで、およそ350年も同じ場所で機能し続けてきました<sup>13)</sup>。

了以は豊臣秀吉・徳川家康の御朱印貿易に加わった豪商で、富士川・天竜川・高瀬川などの水路の開発に尽力し、土木工事技術にも進んだ力量を持っていました<sup>12)</sup>。晩年は、開削工事に関係した人々の菩提を弔うために、嵐山大悲閣千光寺を渡月橋上流右岸側に再興して隠棲しています<sup>14)</sup>。千光寺本堂には本尊の千手観音像と並んで、石斧を手にして右立て膝の構えで保津川をのぞむ形で、法衣姿の了以の木像(写真-3)が安置されています。

### 5. 洛西地区の竣工と再整備<sup>2), 15), 16)</sup>

昭和20(1945)年代までの洛西地域は、桂川を水源として10カ所以上の簡素で老朽化した取水堰を利用しており、用水に困窮していました。

このことから第二次世界大戦後の食糧増産を目的に検討を重ね、昭和23(1948)年に地域の用排水改良を図る府営洛西農業水利改良事業が発足して、昭和

40 (1965) 年に完工しました。

桂川からの10カ所以上の取水は計画取水量  $Q = 6.92 \text{ m}^3/\text{s}$  の一ノ井堰に統合されています。さらに下流では、昭和39 (1964) 年に完了した久我堰府営災害復旧事業で、計画取水量  $Q = 1.088 \text{ m}^3/\text{s}$  の久我井堰が供用されています。通水している用水路は京都市(右京区・西京区・南区・伏見区)、向日市、長岡京市、大山崎町の3市1町にまたがって115 kmにもなります。一ノ井堰の竣工は昭和27年3月ですが、その後の老朽化対策として、平成元(1989)年度に再整備されています。

筆者は昭和63(1988)年度の測量設計業務<sup>17)</sup>に主任技術者(管理技術者)として携わりました。

#### IV. 嵯峨用水の歴史

##### 1. 大沢池<sup>18)</sup>

大沢池は嵯峨天皇(810~824)年間に造営した離宮「嵯峨院」の苑池の一部で、現在は大覚寺境内に属しています。現存する最古の庭園池の一つとされ、国指定名勝になっています。作庭当時は泉・滝・名石等の美を極めた池泉舟遊式庭園でした。今なお池中には菊が島・天神島の2島と巨勢金岡が配置したとされる庭湖石があり、大陸的雰囲気漂わせています(写真-4)。月の名所としても名高く、多くの人が秋の観月に訪れます。

周辺の水田の灌漑用水源として重要な役割を果たしてきており、現在でも40haの受益があります<sup>19)</sup>。

##### 2. 広沢池

広沢池(写真-5)の起源には、平安時代の永祿元(989)年に宇多天皇の孫にあたる寛朝僧正が蓮正寺を建立した際に築造したとする説や、大陸から渡来した秦氏が嵯峨一帯を開拓する際に築造したという説があります<sup>20)</sup>。

西に位置する大覚寺の大沢池とともに古くから観月の名所として知られ、多くの歌人が数多くの歌を詠んでいます。現在は鯉などを養殖しており、年末に池の水を抜いて成長した鯉を収穫する「池ざらえ」は京都の冬の風物詩となっています<sup>21)</sup>。

宮廷文化花盛りの平安時代に清少納言が、枕草子で「野は」として12カ所を示して、大沢池・広沢池を擁する嵯峨野をその筆頭に挙げています<sup>22)</sup>。

景観保全のために昭和42(1967)年に古都保存法の歴史的風土特別保存地区に指定され、周辺農地2haの水源としても継続利用しています<sup>19)</sup>。

##### 3. 菖蒲谷池と角倉隧道(菖蒲谷隧道)

菖蒲谷の呼称は、中世から菖蒲谷に自生する菖蒲を毎年5月5日に御所へ献上したことに由来してい



写真-4 大沢池東岸から天神島を望む



写真-5 広沢池西岸から観音島弁天堂を望む

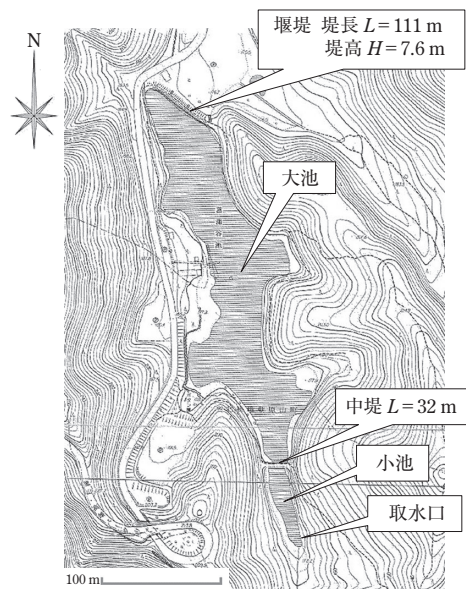


図-3 菖蒲谷池平面図

るそうです<sup>23)</sup>。菖蒲谷池と角倉隧道は伝承によると、「大覚寺宮法親王・大覚寺門跡が、水不足に悩む北嵯峨住民のための策を角倉了以に依頼し、了以没後に息子素庵に継がれ、寛永(1624~1644)年間に縁者の吉田光長・光由兄弟が完成させた」そうです<sup>24)</sup>。

菖蒲谷池は北方向の傾斜地に堰堤を設置した農業用ため池です。中堤で北側の大池と南側の小池を分割し、樋管で貫通しています(図-3)。農業用水は小池から南方側に取水して延長190mの角倉隧道で引水し、北嵯峨地区に灌漑しています。現存の菖蒲谷池は平成23(2011)年度に取水施設を全面改修し、平成26(2014)

年度に部分補修しています。現在の受益戸数はわずか45戸、受益面積は水田24.4haです<sup>3)</sup>。

#### 4. 嵯峨野地区

(1) 沿革<sup>25)</sup> 史跡名勝が多い京都洛西嵯峨野地区は早魃も顕著で、清滝川を水源として広沢池まで導水する計画が江戸時代からありました。しかし、何度も実施直前までこぎつけた計画が、資金難のために惜しくも実現を見ませんでした。けれども、昭和23年に洛西農業水利改良事業が発足し、その一環としてようやく受益面積175haの早魃対策が実現しました。

(2) 嵯峨清滝堰と嵯峨清滝隧道<sup>25)</sup> 清滝川に造成した嵯峨清滝堰は $L=34\text{m}$ 、 $H=3.80\text{m}$ で、計画取水量は $Q=0.3417\text{m}^3/\text{s}$ です。嵯峨清滝堰から有栖川上流部に達する嵯峨清滝隧道は、総延長 $L=1,833.75\text{m}$ の構成です。有栖川上流で放流した用水を0.4km下流で取水して、支線用水路で大沢池を経由して広沢池まで導水しています。

(3) 水環境整備<sup>26)</sup> 平成4(1992)~8(1996)年度に嵯峨野地区で団体営水環境整備事業が実施されています。地区面積は32haで、関係農家数は82戸です。前述の広沢池とともに歴史的風土特別保存地区に指定され、昔ながらの田園風景が保存されています。

#### V. 一ノ井堰の再整備計画

桂川では従来から渡月橋周辺で洪水が頻発しています。近年では、平成25(2013)年の台風18号で93戸の浸水被害が発生し、観光産業が停止して地元経済に大きな被害が発生しました。これを契機に、平成26(2014)年から国土交通省で桂川緊急治水対策事業が実施されています。現在は嵐山地区の堆積土砂や不要構造物の撤去工事が完了し、嵐山左岸溢水対策工事の途上です。今後継続される整備計画には、右岸導水路の改修および一ノ井堰の改修があります<sup>1)</sup>。

一ノ井堰本体の改修計画は、洛西土地改良区と京都府・京都市・国土交通省とで協議中だそうです<sup>3)</sup>。

#### VI. おわりに

洛西地区は古代からの歴史的な特色を持つ地域であり、洛西用水は全国水土里ネット・都道府県水土里ネットが企画制作している疏水百選<sup>27)</sup>に選定され、広沢池は農林水産省農村振興局整備部防災課が企画選定しているため池百選<sup>28)</sup>に選ばれています。

中村安之元京都府農林部(現農林水産部)耕地課長(平成30(2018)年瑞宝双光章綬章)、山本修三洛西土地改良区専務理事からは貴重な示唆を戴きました。また、撮影写真の使用に際して関係機関からの御厚意を戴きました。ここに記して謝意を表します。

#### 引用文献

- 1) 国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所：嵐山左岸溢水対策「史跡及び名勝」嵐山における河川整備―(2019)
- 2) 洛西土地改良区：洛西土地改良区概要書(2012)
- 3) 洛西土地改良区事務所：聞き取り(2021年2月25日)
- 4) 坂本太郎、家永三郎、井上光貞、大野晋(校注)：日本書紀(二)、岩波書店、p.204(1994)
- 5) 林家辰三郎：京都、岩波書店、p.30(1962)
- 6) 一之井堰並通水利組合：一ノ井堰碑銘文(1980)
- 7) 京都府立京都学・歴史館：東寺百合文書WEB、ツ函/341/, 山城国桂川用水差図案、<http://hyakugo.pref.kyoto.lg.jp/contents/detail.php?id=7340>(参照2021年1月28日)
- 8) 小森浩一：東寺百合文書にみる『差図』の世界、京都府立京都学・歴史館歴史資料講座(2021)
- 9) 檜原街並み整備協議会：明智川、駒札
- 10) 京都新聞：(188)明智川(京都市西京区)、ふるさと昔語り、観光アーカイブ、<https://www.kyoto-np.co.jp/info/sightseeing/mukasikatari/071121.html>(参照2019年3月25日)
- 11) 京都市：明智光秀の塚、駒札
- 12) 角倉了以翁像碑保存会：角倉了以翁の業績、石碑銘文(1988)
- 13) 松本精一：示談相整(じだんあいととのう)―近代の桂川一、農土誌74(10)、pp.67~68(2006)
- 14) 京都市：大悲閣(千光寺)、駒札
- 15) 京都府：府営洛西農業水利改良事業概要書(1965)
- 16) 京都府：久我堰災害復旧事業概要(1965)
- 17) 洛西土地改良区：昭和63年度団体営土地改良施設管理設備修繕事業測量及び実施設計業務報告書(1989)
- 18) 京都市：大沢池、駒札
- 19) 山本修三、永野友紀子、渡邊紹裕：京都市内の歴史的な水利施設の保全と多面的機能の継承、水土の知82(11)、pp.11~14(2014)
- 20) 京都府土地改良事業団体連合会：森林と農業 水のつながり、広沢池広報掲示板(2009)
- 21) 京都市：広沢池、駒札
- 22) 清少納言：枕草子(池田亀鑑校訂)、岩波書店、p.224(1962)
- 23) 平安京探偵団：菖蒲谷と六代御前、<http://homepage-nifty.com/heiankyo/heike/heike45.html>(参照2021年3月25日)
- 24) 京都市歴史資料館：フィールド・ミュージアム京都、菖蒲谷池碑、<https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/ishibumi/html/uk133.html>(参照2021年3月25日)
- 25) 京都府洛西農業水利改良事務所：京都府営嵯峨用水改良事業概要(1955)
- 26) 洛西土地改良区：団体営水環境整備事業洛西地区概要書(1996)
- 27) 全国水土里ネット・都道府県水土里ネット：疏水百選、<http://www.inakajin.or.jp/sosui/>(参照2020年12月25日)
- 28) 農林水産省農村振興局整備部防災課：ため池百選、<https://www.maff.go.jp/j/nousin/bousai/tameike/index.html>(参照2021年1月25日)